

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームなごみ(1F)	評価実施年月日	平成19年7月16日～7月31日
評価実施構成員氏名	白土 光雄、土門 誠、畠山 静枝、藤川 正枝、林 トミ子、多々納 舞、桑原 英子、川口 能子、和美 節子		
記録者氏名	土門 誠	記録年月日	平成19年8月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型のサービスを掲げ、馴染みの暮らしを継続していく為の基盤となっている。 優しく。温かく、ぬくもりのある生活を提供させていただいている。	○	地域の人たちと沢山の交流を図れる活動を行っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	掲示してある理念を職員は充分に理解し、個々人にあった生活を提供させていただいている。	○	毎月のユニット目標を自己評価項目より抜粋して取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくりあげ、掲示している。家族には入居時、契約書・重要事項説明書にて詳しく説明している。運営推進会議にて地域代表者に説明している。	○	グループホームの理念や役割を地域に理解され広めていく為に、説明会や機関紙や広報の発行などに取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所のスーパーなどへの買い物や散歩に出かけた時など、近所の方への挨拶を行っている。法人で行う行事への参加の呼びかけやホームにボランティアが来る日時等の連絡などを行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事(入居者が個人参加できるもの)に参加している。	○	今後ホームとしての地域行事への参加やホームでの取り組み等への地域の方の参加を募ってきたい。また、地域代表者との連絡等によって組織的なつながりをつくりあげていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームで不必要になったダンボールを地域の廃品回収に出している。また、地域で行われている研修に参加しケアサービスの向上に努めている。	○	地域の活動や状況についての情報を集め、役立つことがあれば貢献できるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価をするにあたり、全職員で自己評価に取り組んでいる。改善項目の検討を行い、サービスの質の向上につなげている。	○	評価の意義や視点等について全職員がしっかりと把握した上で、評価した項目で改善する部分を検討している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を行い、ホームで行っている取り組みや認知症の方が馴染みのある地域の中でどう関わりを持っていくかを話し合っている。また、地域の方や地域包括支援センターの方、入居者家族に事業内容を含めた意見や質問、要望を聞きだし、サービスの向上に努めている。	○	二ヶ月に一回の運営推進会議の開催。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所の運営方針や取り組み事実について書面調書や運営推進委員会等を通して伝えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	入居される前にご家族の方や利用者に成年後見制度についてお話し、必要であれば気軽に声をかけてもらえるようにしている。現在、該当する方はいない。	○	成年後見制度や地域権利擁護事業について理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束についての研修等を行い、全職員が理解をしている。また、虐待等に関するニュースや新聞記事が記載された際には、朝礼等で報告し全職員一人一人が周知し、理解を深めている。	○	虐待防止についての理解を深める。研修や勉強会で知識を深める。スタッフのストレスを軽減する工夫をする。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明書を時間をかけて入居者やご家族に説明している。同時に入居者やご家族の要望・質問・疑問点を出して頂き、ホームで出来ることと出来ないことをしっかりと明確にしている。契約の改定をする場合は、担当者が入居者・ご家族にその旨をしっかりと説明し理解を得ている。		ご本人やご家族の不安、疑問点などに対し十分なご説明を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の中からケアに関する意見や要望を把握するようにしており、管理者や計画作成担当者に伝え、改善策を全職員で検討し、よりよい支援を図っている。	○	職員会議等で利用者の意見を考慮した具体的原案をあげていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	機関紙発行月には、個人向けのお便りを同封し一人ひとりの生活の様子をお知らせしている。また、面会の際には普段の様子や往診・受診報告も行い、あわせて家族のことやホームでのご意見などを確認させていただいている。	○	機関紙の発行。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービスの質の確保・向上のためにいかなる意見についても、前向きに活かす姿勢・体制をとっている。具体的な意見等については速やかに対応し運営に反映している。	○	面会の際、ご家族の方に悩みやホームに求めること、職員に関することなどの意見を把握し、ミーティングなどで話し合い、反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や普段の職員の会話等から運営に関する疑問や意見を把握し、管理者に伝え出来るだけの改善を図っている。また、研修会等で職員の思いや悩み、不満等を聞きだすようにしている。	○	研修等の充実を図る。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の種類を多数設定しており、出来るだけ柔軟な対応が出来るようにしている。	○	入居者のニーズに応じられるような人員配置の検討を行う。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内移動、私事による退職もあり職員の入れ替わりは多いが、入居者の不安感を防ぐように配慮している。(朝のカンファレンスなどで具体的な内容の検討を行い、継続的なサービスの提供を行っている)	○	職員が働きやすい環境の整備。 職員研修の充実化。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要な研修会には積極的に参加し、外部からの研修も受け入れ、ホーム独自の研修会も行い、人材の育成に配慮している。	○	職員育成の為の研修を行っていき、職員の質の向上を図る。研修報告会の実施。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会への参加。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	人員配置について希望する休暇を取れるよう努めている。職員同士の悩みや現状を把握し、ストレスが軽減できるように配慮している。	○	内部研修の充実化(職員のストレスの原因を探る。同従業者同士の悩みを把握する。)
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個人個人の得意分野を活かしながら、責任を持った仕事ができるように配慮する。 体力的に無理のない勤務の作成を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談の段階で生活習慣や病状、馴染みの関係などを把握し、環境が変わることによる不安を取り除けるように努めている。	○	入居前より細かな情報を把握する。入居者の思いや不安等をしっかりと受け止めることで、信頼関係を作り上げていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居者の状況や様子を伺うとともに、ご家族が望んでいることや不安や悩みを把握している。ご家族の思いをきちんと把握した上で、ホームで何ができるかを検討している。	○	ご家族の希望や思いを理解し、ホームで出来ることを明確にする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントでご本人の状態の把握を行うとともにご家族が抱えている思いや不安等を把握し、初期ケアプランを作成し、ご本人とご家族の方に確認を得ている。	○	入居者・ご家族のニーズに応えられるように努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	相談・見学にこられた際、ホームの概要説明を行いパンフレットをお渡ししている。可能であれば、ご本人に何度か足を運んでいただけるよう声をかけている。また、馴染みの生活が継続できるようご本人・ご家族とともに配慮を行っている。	○	サービス提供前の情報の収集、及び本人やご家族からの細かな要望の聞き取り。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	コミュニケーションをとることを第一に考え入居者に歩み寄るよう心がけている。また、入居者の希望や思いが叶うように日々職員同士で話し合いを持っている。声掛け等にも工夫をし、互いに支えあう関係を築けるように努めている。	○	日々の生活が充実したものになるよう支援し、常に入居者のニーズを引き出せるような馴染みの関係を構築する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会等で来られた際には入居者の日常生活を報告し、一緒にご本人の希望に添う支援を考えている。同時に家族の不安や悩みを聞きだし、相談にのっている。		ご家族との会話を通し共感していく中で、ご本人様に対してのよりよい支援に向け取り組んでいく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	家族が気楽に訪問できるような雰囲気作りを行っている。行事等の写真や話題提供によりご本人とご家族の会話が円滑になるよう支援を行っている。	○	ご家族への行事参加の呼びかけ。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力を得ながら馴染みのある場所などに出かけたり、お墓参り等を行っている。	○	知人や友人が面会に来られた際、コミュニケーションの円滑を図る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常の家事・掃除など分担し助け合って出来、充実した生活を送れるように支援を行っている。入居者同士で共通の会話が出来るとな話題提供を行っている。	○	職員が、入居者個人個人が孤立化しないような役割を担い、入居者間が円滑になるようにしていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了されてもご本人やご家族の情報確認を行い、継続的に相談にのっている。気軽に訪問していただけるようお声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向について添えられるよう努めている。	○	日常の関わりの中で一人ひとりの生活について検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際にエピソード記録等で出来るだけ過去の情報を収集している。また、ご本人との会話の中で、さりげなく過去の暮らし等の情報を得られるよう努めている。	○	収集した情報の記録と職員間での共有に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人の生活習慣はもちろんのことその日その日の精神状況や身体状況の把握に努めている。また、職員間でのそういった個人の情報の共有に努め一貫した支援が出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の生活の中や会話の中で気付いた事をケアプランや具体的な取り組みに組み込んでいる。また、随時カンファレンスを行い職員の意見とご本人・ご家族の意向を投合し、ご家族にはその内容をご確認いただいている。	○	介護支援専門員を中心にご本人・ご家族・全職員間でご本人が望んでいるより良い生活を送れるように意見交換を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画はご本人の状態に即しているかの見直しがすぐに出来るようにしている。心身状態に変化が生じた場合は、カンファレンスを行いケアの見直しやより適切な援助方法の検討を行うっている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の様子については記録に記入し、入居者が充実した日々を送れるようにケアプランに持ちづいた支援を行っている。また、個々人の情報については申し送り等で職員間で共有している。	○	記録の徹底と情報の共有化。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の状況変化に対応できる支援を行っている。他事業所等のサービスを利用されている方はおらず、全員当ホームの支援のみである。	○	重度化しないための介護支援の検討。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	敬老会や日常でのボランティア団体の演芸会を開催している。また関係機関とはその都度連絡調整を実施している。	○	今後も関係を継続しながら協力を依頼していく。消防に消防・防災の関係等でのアドバイスや助言を頂きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状で他サービスを利用されている方はいない。	○	他機関との連携を図っていき、サービスの質の向上に向けていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと連絡を取り合い、連携を図りながら協働している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的な受診を含め、突発的な症状にも対応いただけるようかかりつけ医との連携を密にとっている。	○	医療機関との連携を密にし、急変時の対応を含め連携を依頼していく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医に現状態をこまめに報告し相談や指示を頂いている。また協力医療機関として市内精神科病院との連携を密にしている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同法人内の看護師に依頼し、定期的に入居者様の健康状態について上申及びバイタルのチェック等を実施している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関への入居者の状態変化を密に報告しており、入院した時にはスムーズな対応が出来るようにしている。入院した際にも状態変化や日常の様子を把握し、退院しても状態にあわせた対応を継続して行えるようにしている。	○	ソーシャルワーカーや医師との連携を密にし、可能な限り早期退院できるように努めていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	当ホームにての重度化した場合や終末期に対する方針を明確にし、ご本人、ご家族にお伝えしている。	○	今後も繰り返しご相談を行っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状況によって随時カンファレンスを行い、ホームで何が出来るか検討を行っている。ご家族やご本人の希望になるべく添えるように、職員が統一した支援を行っている。医療に関しては医師や看護婦に相談し、指示のもとほ一むで出来ることは協力している。	○	日頃よりスタッフ間にて重度化した場合及び終末期に対して話し合いを行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ホームでの状況をご家族やケア関係者に伝え、馴染んだ環境を継続できるよう配慮している。	○	環境変化によるダメージを最小限にする為、ケア関係者との事前な話し合いを持つ。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者個々人の生活暦・習慣などを職員全員が把握しており、人生の先輩として常に敬意を持ち、誇りやプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないように心がけている。	○	運営理念に基づき常に介護職員の意識付けを行う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定を原則とし、ご本人の思いや希望を引き出すことができるよう配慮を行っていく。	○	ご本人の思いや希望を引き出すことができるようにしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に自由に過ごして頂き、一人ひとりの性格や習慣に合うように工夫し、声掛けの仕方にも配慮している。	○	ご本人の希望に添った支援をし、今までの生活習慣に配慮を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望をお伺いし、自由に整容を実施できるよう支援を行っている。また、理容・美容についてもご本人の希望を重視できるようにしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々人の状況に応じて手伝っていただいたり、お一人で行って頂いている。食事についても介助が必要な方であっても、その方のペースにあわせ食事を提供できるよう心がけている。食欲が増し食事が楽しめるよう、使う食器や盛り付けに配慮している。また、なじみの食器や箸が使われている方も多い。	○	楽しい雰囲気の中で食事を取っていただくことができるよう、お一人お一人のペースにあわせ、食事の提供を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人・ご家族の希望を第一に優先し、お好みのものを召し上がっていただけるよう配慮を行っている。主治医への相談、報告を行い、健康管理には十分配慮を行うようにしている。	○	ご本人の健康状態を把握し、主治医に相談した上で提供していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々人の排泄のパターンを把握し、常に清潔な状態が保てるよう配慮している。排泄間隔が長い方には声掛けを行ったり、排泄の失敗を周知されないように心がけている。	○	一人ひとりの排泄リズムをつかみ、誘導・声掛けを行う。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週3回実施し日程・時間を固定させていただいているが、ご希望や生活習慣をお持ちの方に対してはその都度応対し、入浴をして頂くなど支援を行っている。	○	その方のペースにあった入浴を楽しんでいただけるよう支援を行っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その方のペースにあわせた安眠や休息を支援している。	○	日中は過度にならないよう運動や散歩等を提供することによって、夜間に安眠していただけるようにしていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々人の得意としていること、昔の習慣だったこと、趣味や家事、畑仕事、作業など発揮していただけるよう支援している。	○	これまでの生活歴などに考慮し、ホームでの生活において張り合いが持てるよう支援を行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族とも相談をし、お小遣いを持ってらっしゃる方もおり、外出時には買い物をし帰宅されることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩等希望がある時は出来る限り希望に添えるように支援している。また、外出の少ない方には日中活動や行事等で外に出る楽しみが持てるように支援しているが、状況により待っていただいたり、日時の変更をして頂くこともある。	○	できる限りご本人の希望に沿った形で外出することができるようにしていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者との日常生活での会話等の中から行って見たい場所などを聞き取り、行事に取り入れたり、個別で出かける機会を作っている。また、ご家族と出かけられる場合もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があった際にはホームの電話を使っていただき、連絡を取っていただいている。また、手紙についてもご本人の希望に沿ってやり取りをしていただいている。	○	プライバシーに十分注意し、電話や手紙のやり取りを行っていただく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問率を高める為のお願いは各ご家族へ行っており大半のご家族では実践して頂いている。雰囲気等についてはスタッフが間を取り持つような配慮はその都度行っている。	○	今後も気軽に立ち寄っていただけるよう訪問しやすい雰囲気を作っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	やむを得ない場合を除き、身体拘束を行わないとの認識を各スタッフ間にて共有している。	○	今後も各スタッフの意識を高められるようにしていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外施錠はしていない。入居者様の状況状態の把握・見守りをしっかりと行い、職員間の連携とさりげない声掛けを行ってやる。	○	職員の連携を強化し今後も施錠しないケアを継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	さりげない見守りをする中で、毎日の入居者の様子や行動を記録し引継ぎをするとともに職員間で共有しながら安全に配慮している。	○	入居者の行動パターンをつかみ、さりげない声掛けや見守りを今後も継続して行う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々人の状態にあわせた物品管理を行っている。危険な物品等については保管場所や保管方法に工夫をしている。	○	一人ひとりの環境整備を図り、危険な状態でないかどうか確認を行っていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故、インシデントレポートの提出を義務付けており、具体的な検討の中事故再発防止に努め、事故が起きないように原因追求をしている。	○	事故報告書、インシデントレポートを元に今後起こり得るリスクについての解消法を考えていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故や救急時のマニュアルがあり、職員全員に周知徹底されている。また、年に数回救急救命についての講習を消防署より受けている。また、各入居者様のご様子や状況等を各スタッフにて共有し事故防止に向け取り組んでいる。	○	機会があるごとに講習を受け、どのような状況にも対応できるようスキルアップを目指す。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を実施している。また非常連絡網を作り、隣接の施設や町内会への協力依頼を行っている。	○	今後も繰り返し避難訓練を行うことにより、災害時に冷静に対応できるようにしていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	事前に入居者の生活や習慣について情報を頂き対応しているが、入居後の変化や必要な事項については、ご家族の方と連絡を取り合いながら対応策を立てている。	○	ご家族との会話の中で、ご本人にとっての最善の対応を行えるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックの他、日常の中で顔色や表情、またご本人の行動やしぐさなどから体調の変化に気づくことができるようにしている。また各スタッフ間にて記録と共に口頭にての情報の共有を行っている。	○	職員個々が入居者一人ひとりの様子をより詳しく観察し、些細な変化も見逃さないようにする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者個々が服薬している薬をファイリングし、各職員間にて内服薬の情報把握のため内容を共有している。	○	各職員のスキルアップ及び職員間の情報共有の徹底を実施していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者一人ひとりの排便状況の確認を行うとともに、水分の摂取を促したり、日々の散歩等により適度な運動を提供している。また医師との連携を行っている。	○	今度も医師との連携をとりながら便秘の予防や対応を行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	可能な限りご自分でおこなって頂いているが、必要な場合は職員が援助している。ご自分で行える方は見守っているが、歯を磨く習慣が乏しい方には声掛けを行っている。	○	口腔ケアが習慣になっていない入居者の方への歯磨きの習慣を身につけてもらえるような対応策を考えたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師とも相談を行いながら一人ひとりの状態に応じ、摂取していただいている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	清潔の保持、手洗いうがいの実施を常に行っている。感染したかたについては居室で休んでいただき、職員が多く訪ねるようにしている。また、マニュアルを作成し、職員間にて共有し、予防に取り組んでいる。	○	研修会などに参加し、各職員へ周知徹底を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日の台所の清掃の徹底。タオル・ふきん等は漂白し食器類は消毒を行っている。食材は毎日新鮮なものを購入若しくは配達され、保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入り口に看板をつけ、玄関には観葉植物が置かれてある。建物の横には花壇があり、裏手には畑がある。入り口には段差は全くなく、足の不自由な方も立ち入りやすく工夫をしている。	○	近隣の人やご家族の方が訪問しやすい、玄関周りの良い環境作りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同空間には、季節感のあるものを配置したり、家庭にある物を設置し、自室以外でも寛げる場所を提供しているが、まだ工夫の余地はある。不快な音もなく、安心して生活できている。音楽をかけたり、ビデオ・テレビを流したりとの工夫もしている。	○	家庭観のある環境づくり、共用空間での一人ひとりの居場所作りを考えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのは長椅子・テーブル・テレビがあり、その配置によっては、一人になれたような空間作りが可能である。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備えつきの家具があるが、ご希望に応じ、なじみの家具や、その他の持込をしていたいいる。	○	その都度入居者様のご要望をお伺いする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適宜調整を行うなど配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーや、廊下・トイレに手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	お部屋へ表札をつけるなどさりげない配慮を行うよう心がけている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	周りには畑や花壇があり、入居者主体で作物を育てており、草むしりや水やりを行っている。入居者の育てた作物をメニューに取り入れ、収穫の喜びを分かち合っている。	○	玄関前や駐車場前の手入れ(水まき・草むしり等)を入居者と一緒にっていく。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

入居されている方々、お一人お一人に対し、人生の先輩として尊敬の念を抱き、入居者様と良い関係を保つことで、穏やかにゆったりと毎日の生活を過ごされています。それぞれの生活のペースを崩さぬよう、居心地よい環境を目標としています。花壇や畑、自然に囲まれた静かな環境にて生活を送っていただいております。近くには、一戸建ての住宅があり、ご希望があれば宿泊場所として、ご家族と一緒に過ごされることが可能です。